

文化の力で絆深める

第26回国民文化祭・京都2011



市文化センター「おやじが奏でる名曲に酔う」

10月29日～11月6日、府内各地の会場で趣向を凝らした催しが繰り広げられた国民文化祭。本市でも「おやじたちのコンサート」と「松花堂昭乗展」(12月4日まで開催)を開催し、市内外から約6,000人が訪れました。

市文化センターで11月6日に行われた「おやじたちのコンサート」で、往年の名曲が次々と披露されました。

東日本大震災で被害を受けた茨城県ひたちなか市など、全国から団塊の世代を中心に結成した10組が集結。参加者は、思いのスタイルでポール・アンの「ダイアナ」や堺正章の「街の灯り」などの名曲を会場に響かせました。来場者は、懐かしき時代の音色に酔いしれ、最後

松花堂美術館 昭乗と徳川 関係探る展示



6

にスペシャルゲストに招いた「紙ふうせん」と会場全員で翼をください」を歌い、音楽で絆を深めました。

松花堂庭園・美術館では「寛永の三筆」と称される石清水八幡宮の社僧・松花堂昭乗と、尾張徳川家とのかわりを探る特別展「昭乗と徳川家ゆかりの人々」を開催。ほかに茶会、いけ花展や書道展などで来場者をもてなし、日本最大の文化の祭典を盛り上げました。



2



3

- 1 青春のサウンドを奏でた「おやじたちのコンサート」
- 2 3 思いのスタイルで会場を魅了
- 4 往年の名曲に聞き入る会場
- 5 徳川義直筆の「徳川家康画像」などが並んだ特別展
- 6 学生がお茶でもてなす「学生茶席」
- 7 「おもてなし書道展」
- 8 「おもてなしいけ花展」



4



5



8



7

八幡市老人クラブ連合会 「愛の貯金箱」開封作業



硬貨なの仕分けをする女性役員ら

「1日1円」を台言葉に八幡市老人クラブ連合会の会員から寄付を募った「愛の貯金箱」の開封作業が11月15日、

老人憩いの家「八寿園」で行われました。昭和56年に始まった愛の貯金箱も今年で31回目。今年の

2月に会員宅約3,800世帯に貯金箱を配布し、買い物の釣り銭などをコツコツ貯めました。

広間に集まった同連合会の女性部長などの役員約80人が、5グループに分かれて貯金箱を次々と開封すると机にはみるみる善意の山に。役員などは手を真っ黒にしながら、紙幣や硬貨の仕分け作業を手際よく行い、硬貨の種類ごとに袋に詰めました。

市内7つの郵便局で集計した合計金額は1億5千万1千49円。今回集まった金額は市に寄付されることになります。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

ダシの風味や取り方学ぶ

「京都吉兆」の村上寛治顧問が授業

八幡市が発祥の地とされる松花堂弁当づくりを通じて、食への関心や興味を高めようと、八幡小学校で11月18日、「京都吉兆」松花堂店の村上寛治顧問による授業「お吸い物を味わおう」が行われました。

6年生の家庭科の授業の一環。まず児童は、和食の味を支える「ダシ」の風味やおいしさを知らうと、昆布、煮干とワツオ節から取った3種類のダシを試飲。ほかに村上顧問による見事な包丁さばき

でハモを切り分ける実演を見学しました。

また、村上顧問は児童らの前でダシの取り方を実演し「火を止めてからアクを丁寧にとること」とアドバイス。最後に出来上がったハモと冬瓜の入ったお吸い物をいただきました。

児童らはお吸い物にゆずの皮を入れて、ダシの風味の変化を満喫。松村直哉くん(12)は「飲むうちにダシの味がかわってきて、おいしかった」と喜んでいました。



村上顧問の見事な包丁さばきに見入る児童ら